

これまでの検討会における委員からの主な意見

区分	委員からの主な意見
幼児児童生徒の生活指導	<ul style="list-style-type: none"> ・ 特別支援学校の毎日の日常生活の指導の積み重ねにより、児童生徒が成長した。 ・ 分かりやすく学べるよう、ICT を活用した指導の充実を望む。 ・ 生活指導は、学校の授業だけでなく、福祉施設での生活も含め、地域ぐるみで支えていくことが大切。
生活訓練施設・校内宿泊学習	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生活訓練施設は、現代の生活様式に合わせ改修等を進めてほしい。 ・ 生活訓練施設は、小集団で人間関係を形成できるよさもあるが、高等部生の卒業後の生活も見据え、個室の設備もあるとよい。 ・ 校内宿泊学習は、修学旅行に向けて宿泊体験を積み重ねるという意義がある。
教員の専門性の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教師の関わり方で、児童生徒の特性が障害にも個性にもなる。一人一人に応じた指導ができるよう、教員の研修が大切。 ・ 特別支援学級の担当教員に対する、体系的な指導・支援の方法に関する研修が必要。 ・ 児童生徒が、失敗しても大丈夫だと分かることが大切。できることを第一目的にすると、児童生徒が伸びようとする姿を見落としてしまう。 ・ 障害が重度の児童生徒が出しているサインをキャッチしながら、よりよく生きる方法を考えることが必要。
寄宿舎	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教育的入舎については、遠距離を理由とする入舎生が減少する中で、寄宿舎指導員の配置の関係もあり、空き部屋を埋めるために、校長の裁量で認めてきた。 ・ 寄宿舎における生活指導と、学校における「日常生活の指導」等とは、同じ趣旨ではない。 ・ 施設については、時代錯誤を感じる。 ・ もともと小中学部対応なので、もし継続的に活用するならば大幅な改修を考える必要がある。 ・ 寄宿舎の夜間の職員体制が、一晩に4人ということで、民間の施設からするとうらやましい。 ・ 寄宿舎指導員は、特に資格はない中、児童生徒への指導方法を積み重ねてきた。その繰り返しの指導で児童生徒が成長してきたのは事実であり、学校側が、その成果をどう波及してきたのかを知りたい。 ・ 小学校における学童保育と同様、寄宿舎でしか見せない児童生徒の顔があると思うので、関係者間の連携が大切。

家庭、教育 及び 福祉の連携	<ul style="list-style-type: none"> ・トライアングルプロジェクトの具現化が望まれる。連携をコーディネートする人がいるとよい。
学校と 家庭の 連携・ 保護者 支援	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者同士の関わりや高等部生の姿から、子どもの将来の姿を知ることができた。 ・学校の連絡帳は保護者として有難いが、何を書けばよいのか分からないという人もいる。周囲からの支援が必要。 ・児童生徒が小中学校に就学した後に診断を受けた場合、保護者支援の情報が入りにくいので、教育の中でフォローが必要。
学校と 福祉の 連携	<ul style="list-style-type: none"> ・自閉症と知的障害があり、行動障害が見られる生徒は、卒業後の事業所での受入れが困難な事例がある。家庭、教育、福祉の連携が重要。 ・卒業後、一般就労した生徒が、どこに相談していいか分からないという例がある。在学中からの情報提供が必要。 ・相談支援専門員が集まる会議等に、学校の教員も参加し、話し合えるとよい。 ・相談支援専門員が子どもや保護者に伴走し、寄り添っていけるような仕組み作りが必要。 ・放課後等デイサービスが増加しているため、情報共有のための、効果的で効率的な連携が必要。 ・卒業後に生徒が孤立しないよう、余暇の過ごし方についても、福祉と連携した取組が必要。 ・卒業後、保護者が介護疲れにならないための支援は、今後、ますます盛んになるだろう。 ・養育困難な事例については、学校がすべてのことはできない。本来、地域や家庭がやるべきことを、福祉がどうフォローしていくかが大切。 ・難しいケースだけの連携ではなく、連携が当たり前になるための仕組みが必要。
その他	
医療的 ケア	<ul style="list-style-type: none"> ・医療的ケア児は、ケアによって教育活動が中断されることがあるので、教育活動を保障するための条件整備が課題。 ・医療的ケア児が、保護者から離れて活動を重ねる経験ができるよう、関係者の連携が大切。
インクル ーシブ 教育シス テム	<ul style="list-style-type: none"> ・特別支援学校の子どもが、居住地の小中学校で学ぶ、居住地校交流は効果的である。 ・障害のある当事者への支援だけでなく、周囲の児童生徒が、障害のある人の理解について学べる機会を作ることが重要。
食堂	<ul style="list-style-type: none"> ・食堂棟が狭く、アレルギー等への対応のためには、早急に改善が必要。
教室使用	<ul style="list-style-type: none"> ・一部の学校で教室の狭隘化の課題がある。